

R 元. 7. 27 二宮中学校意見交換会

出席者 13 人

町教育委員会：森教育長・原教育委員

事務局：森教育長・原教育委員・黒石教育部長・下條教育総務課長・永井指導主事・寺口指導班長（書記）

1. 開会

14:00～

2. 挨拶

森教育長から

3. 説明

- ・原道子教育委員 「小中一貫教育とは」
- ・大原学園の VTR を視聴
- ・永井指導主事 「二宮町小中一貫教育校設置計画案について」

4. 意見交換

論点①「教育内容とスケジュール」

下町地区住民：小中一貫教育はとても良いものだと思います。それなのになぜ始めるまでにこんなに時間がかかるのでしょうか。もしこのスケジュールで始めるのなら、もっと小さい子がいる保護者を巻き込んで行うべきではないでしょうか。また、将来単級になることが見込まれる中で、なぜ 2 校なのかということが気になりました。庁舎も 20 億かかると聞いているのに、既存の施設も古くなっていて、校舎や体育館の耐久年数もなくなってきて、町の財政は大丈夫なのでしょうか。今後、住民税があがってしまうのでしょうか。

部長：出来るだけ早くやりたいとは思っているのですが、小学校と中学校をつなげて 1 つの学校としていくには準備が必要です。今、9 年間を見通したカリキュラム作りを行っていて、英語の乗り入れ授業について、説明をさせていただきましたが、他の教科でも同じようなことをしなければいけません。また、教員の意識改革や、施設の改修も必要になります。施設分離型でも小中一貫教育は出来ますので、まずは令和 4 年から分離型で小中一貫教育を行っていきたいと思っていて、目標としては施設一体型の小中一貫教育校を目指していきたいと考えています。次に、未就学児の保護者についての説明

についてですが、今回広報等で周知もさせていただいたのですが、十分ではなかったため、また別の機会を設けていきたいと思っております。予算の関係については、確かに町にとって大きな負担になるものです。町の負担をなるべく少なくするように、国などの財源を確保していきたいと思っております。財源などについても詳細をお示ししていきたいと思っております。このことについて、町民税があがるということはありませんので、ご理解いただきたいと思っております。

元町北地区住民：二宮町は、地域ごとのつながりが深いと思っております。施設一体型がいいというのは分かりましたが、近くで小中一貫教育を分離型を行っているところはあるのでしょうか。分離型の場合は、こういった問題があるのかということについては把握しているのでしょうか。保護者や子どもたちとの意見交換会は行ったのでしょうか。

教育長：海老名市有馬中・箱根町・秦野市は分離型で既に小中一貫教育を行っています。1つの中学校に対して複数の小学校で行っているところが多いです。分離型のデメリットですが、距離が離れているので、移動に時間がかかるということと、1コマの時間が違うので、時間調整も難しいところです。中学校の教員は自分の教科を小学校で教えることは出来ますが、小学校の教員は中学校の免許を持っていないと教えることが出来ないため、小学校の教員は何が出来るのかということになります。部活や支援教育を一緒に行ったり、より良い児童指導、生徒指導を行うには施設一体型がいいと考え、計画案を作成しました。

部長：今回は第1回目の意見交換会ということで、各学校と町民センターで行わせていただきました。まだこれから他の方法でも意見交換会を行い、計画の見直しも行っていきますので、機会を設けて行っていきたいと考えています。他の会場でも子どもたちの意見は聞かないのかというご意見をいただいておりますので、それも検討していきたいと思っております。

元町北地区住民：分離型の場合、今の説明だと教員の交流のデメリットということでしたが、自然に子どもが交流できるということが大切なのではないのでしょうか。

教育長：子どもの交流を行うためにも、分離型ですと、例えば、クラブ活動と部活動と一緒にやろうとしても、子ども自体が移動しなければいけないため、その為の時間も取られてしまいます。小中連携を行うためには、子ども同士

の交流の場をたくさん設けていく必要があります。その為には、行事を1つにするなどの工夫が必要になってきます。

下町地区住民：分離型だと交流するためには、移動時間を取られてしまい、授業の時間が削られてしまうのは困ると思いますので、そこは子どもの負担にならないように考えていただきたいです。小中一貫教育のデメリットとしてあげられている、人間関係が固定されてしまうということでしたが、そこを解消するために一定数の学級数の確保と言われましたが、今、教員不足が言われていて、教員の確保は出来るのでしょうか。

教育委員：人間関係の固定化については、今も二宮小学校の子はそのまま二中に行き、山西小学校の子は西中に行って9年間一緒ですので、人間関係について配慮したり、連携を取るようにしています。一方で、小中一貫教育のメリットである、異年齢の子が大勢いる環境というのは、上の子どもが下の子どもを注意したり、上の子どもにとってはお手本にならなければという自覚が育ちますので、そういったところからも、不安が解消されるということもあると思います。

教育長：教員不足については、二宮町でも教員がいなくて困っています。採用試験の倍率をみていただいても分かると思うのですが、教員を志望する人が少なくなっています。大原学院のように、義務教育学校を行うためには、小学校と中学校の両方の免許を持っている必要があります。今、中学校の免許を持った小学校の教員が少なく、困っている所です。さらに小学校で英語が教科化されましたが、今の小学校の先生は英語について教わってきたわけではありませんが、小学校で英語を教えなければなりません。免許法の中で、臨時の免許を発行するなど国で検討したりはしている所です。現在、二宮でも教員を探すことが大変になっているので、退職された先生に非常勤として勤めていただいたりしています。しかし、教員の働き方改革を全国的に行っていますので、教員になる人が増えてくれれば良いと思っています。

下町地区住民：二宮町を2校にまとめていくというのは、いいと思います。一方で、一色小学校は単級化しているのに、なぜ令和8年まで待たなければいけないのかと思いました。一色小を拠点にしたいからというのも分かるのですが、山西側に1拠点というのもいいのではなかというの思いました。山西小ではない理由があれば、教えてください。生徒には学校を選んでもらうということは考えているのでしょうか。人間関係の固定化という話もあったよう

に、何かあれば、隣の学校に行くというのも考えてもいいと思います。4・3・2制の中で、その区切りで移行するというのは考えないのでしょうか。

部長：なぜ一色小学校なのかという事ですが、まずは小学校区に1校学校を残すという考えがありました。一色小学校区は、一色小学校しかありませんので、一色小学校を残し、山西小学校区は西中・山小があるので、山西小学校を残して二宮西中学校を移動するというのを考えました。町全体のバランスを考えて、一色小学校は人口は減っていますが、だから学校がなくていいというわけではなく、学校が地域の活動の中心になっていると思いますので、減っている所をなくすという考え方はしませんでした。学校を選ぶという考え方についてですが、地域のつながりの中で子どもたちを育てていくことが大切だと考えているので、学区を設定したいと思います。いじめなどの課題がある場合は、違う学校に行くということは今でも行っていますので、その考え方は残していきたいと思います。

教育長：なぜ令和8年なのかという事ですが、何も案がないと、意見交換も出来ないで、このような計画案を出させていただきました。他の学校でも色々なご意見をいただきました。色々な案を出していただき、もっと早くして欲しいというご意見が多いのであれば、早くしていきたいと思います。なるべく早く行いたいと考えていますが、みなさんが納得していただけるものを作りたいと考えていますので、皆さんの色々なご意見を伺いたいと思います。

論点②「学校の場所と施設」、論点③「学区・地域」

下町地区住民：PTAやコミュニティ・スクールの取り組みの連携などは、早めに動き出せるものだと思いますので、早めに言っていただけたらと思います。

不明：二宮町の子どもたちはどのくらいの割合で私立に行っているのでしょうか。4・3・2制にすると、途中から私立に行くのが難しく、私立の受験が不利になるのではないのでしょうか。

教育長：二宮町では私立に行く子どもは少ないです。指導要領を逸脱して授業を行うというのを考えてはいません。まだ4・3・2制も決まっているものでもありませんし、小学校が終わる6年生のところで、卒業証書も出さずし、転入・転出等をして大丈夫です。9年間のメリハリがないんじゃないかという意見を他の地域でもいただきましたが、それぞれの区切りのところで、イベントが出来ればメリハリが出来ると思います。コミュニテ

イ・スクールを 5 つの学校で今年度から始めました。地域の方に学校を支えていただきたいと思いますし、子どもたちは、地域の活動にまだまだ参加できていないと思います。地域の方にゲストティーチャーに来ていただいたり、気軽に挨拶をしていただけるだけのボランティアにでも来ていただきたいと思います。

下町地区住民：津波の影響を考えると、二宮中学校に子どもを集めるというのはどうなのでしょう。二宮町は海拔が高いとは聞いていますが、ここは大丈夫なのでしょう。また、二宮中学校の耐震構造は大丈夫なのでしょう。調査をして、耐震に問題があった場合は計画を変更するのでしょうか。

部長：二宮中学校は海拔 25 メートル以上あります。町としては梅沢海岸などの低い土地に対する津波対策は行っていますが、ここは 25 メートル以上あるということで、想定されている津波が 14 メートルということですので、対策は必要がないということで、行っていません。二宮中学校自体の建物、体育館の耐震化は済んでいます。また、来年度施設の状況調査を行います。コンクリートの老朽化などの調査を行い、内容についてはお示しします。防災とも連携をとりながら、計画を変更する必要があるれば変更することもあり得ると思います。

下町地区住民：4 年生と 2 歳の子供がいます。今、公園でボール遊びが出来ないので、小学生がボール遊びをするとき、学校にボール遊びをしに行きます。小学生の遊ぶ場所の確保と、中学生の部活動を行う場所の確保はどうなのでしょう。

課長：他の自治体の例として、タイムスケジュールを作って、順番に使っているというところもあるようです。小中を一緒にした場合、空いた施設をどうするのかということもあります。二小から二中に移した場合、学童を二小に残すことも出来ます。校庭の確保については、学童をどうするのかということも含めて検討していきたいと思っています。

教育長：今、働き方改革の一つとして、部活動のガイドラインを作っています。その中で、毎日部活をすることもどうなんだろうという意見もあり、部活動の休養日を設けようとしていますので、その休養日を小学生への校庭の開放日とすることも出来ると思います。子どもたちがボール遊びが出来る町づくりをしていかなければいけないと思います。

不明：下校時に中学校のそばを通ると、子どもたちが広がって歩いています。町の都市計画がなっていないと思います。学校の周りをスクールゾーンにするなどすべきです。大震災が起こったとき、橋が落ちてしまえば、二宮町は陸の孤島になってしまいます。区画整備などをきちんとしていただきたいと思います。

下町地区住民：1歳の子供がいます。この意見交換会についてはママ友から聞きました。赤ちゃんを連れている人たちが集まっている場所でも説明していただきたいと思います。

部長：皆さんがいられる場所に伺いたいのですが、どこで説明するのが一番いいでしょうか。

下町地区住民：子どもを遊ばせながら、説明が聞ければいいと思います。保健センターの健診が強制的に行くものなので、いいのではないのでしょうか。